

# イエール大学図書館長書簡類にみる朝河貫一の日本資料収集

松谷有美子（清泉女子大学附属図書館）

y-matsutani@seisen-u.ac.jp

## 1. 研究の背景と目的

朝河貫一（1873-1948）によるイエール大学図書館のための日本資料収集は、アメリカの図書館における日本コレクション草創期にあたる。朝河は、第1回日本帰国（1906年2月-1907年8月）において、イエール大学図書館と米国議会図書館のために日本資料を収集した。朝河の収集は、両図書館にとって初めての計画的かつ組織的な日本資料の収集であった。第1回日本帰国における朝河の日本資料収集を明らかにすることは、北米における日本コレクションがどのようにして始まったのかを知るうえで重要である。

2013年の修士論文では、主に目録<sup>1)</sup>から収集資料の特徴を探った。目録を通して朝河の収集資料の日本古典籍に関わる部分が明らかになったが、同時に、目録と朝河が収集したとする分量に差があることも明らかになった<sup>2)</sup>。

すでに2015年の論文集で書簡類の研究の可能性を示唆したように、朝河の意図や収集資料を読み解くことによって、朝河がコレクションを通して世界にどのような日本を体現しようとしたかが見えてくる<sup>3)</sup>。本研究は、朝河の日本資料収集の全容解明に向け、第1回日本帰国時の書簡類を手がかりに、朝河の収集活動および収集資料の一端を明らかにする。

## 2. 調査方法

イエール大学マニユスクリプト・アーカイブ部（Manuscripts and Archives: MSSA）所蔵の Librarian, Yale University records から、朝河と当時のイエール大学図書館長 John Christopher Schwab

（1865-1916）の間で取り交わされた1906-1907年の書簡類を研究対象として、史料解読、分析を行った<sup>4)</sup>。さらに、収集の公式表明である1907-1908年の『イエール大学図書館長年次報告』（*Report of the Librarian of Yale University*）との比較検討を行った<sup>5)</sup>。

## 3. 調査結果

### 3.1 書簡類の種類と内容

書簡類は、書簡、換金の明細書、収支一覧と発送品一覧、船積書類に分けられる。

朝河と Schwab 館長の書簡は、来日直前と帰米直後を含め、1906年1月5日から1907年9月11日までの間に30通が交わされた。そのうち、朝河から Schwab 宛が19通、Schwab から朝河宛が11通である。書簡は、すべて英文で、手書きのものもあれば、タイプされたものもある。

朝河から Schwab 館長宛書簡には、4回にわたって明細書（memo）の添付があった。明細書は、Schwab 館長から送られた為替手形（draft）を換金したことを証明するもので、購入資金としてイエール大学から支給された最終的な金額がわかる。朝河は合計で3200ドル（6381円66銭）を受け取ったことになる。この明細書は、横浜正金銀行（The Yokohama Specie Bank Limited）の東京支店（Tokyo Branch）と印刷されていること、同行の行名印が押されていることから、朝河が同支店で換金したことがわかる。朝河が書簡の中で資料収集のための資金調達を何度も嘆願していることから、イエール大学の収集資金調達には、時間がかかったことがわかる。以上から、Schwab 館長は、ある程度資金調達で

第 1 表 収支一覧と発送品一覧

		朝河が付けた標題	いつから	いつまで	書簡情報	
収支一覧	1	タイプ	Yale Accounts	1906年2月25日	1906年11月8日	蔵経書院から直送の情報を含む
	2	手書き	Yale Accounts	1906年11月8日	1907年2月10日	吉川弘文館から直送の情報を含む
	3	手書き	Yale Accounts	1907年2月1日	1907年4月30日	安芸丸 3箱の情報を含む
	4	手書き	Yale Accounts	1907年5月1日	1907年8月7日	ミネソタ号 26箱の情報を含む
		朝河が付けた標題		発送日		
発送品一覧	1	手書き	Names of Books		1907年1月21日	吉川弘文館から直送 安芸丸 4箱
	2	手書き	Three cases of books shipped on the S. S. Aki, from K. Asakawa, Waseda University, Tokyo, Japan, to Yale University Library, April 13, 1907.		1907年4月17日	安芸丸 3箱

きるとその都度朝河に送金していた様子が明らかとなった。

書簡類からは、書名や金額などが書かれた一覧が見つかった。一覧は 6 件確認でき、収支一覧 (Yale accounts) と発送品一覧の 2 種類に分けることができる (第 1 表)。書籍などの購入が記録され、書名が一覧で書かれている。イエール大学からの収集資金をどのように使ったかについて、朝河から Schwab への収支報告であったと考えられる。書名に関しては、ほとんどの場合和名がローマ字で表記されている。漢字が併記されていることもあるが、書名の一部が省略されていることもあった。

日本からアメリカへの発送時の船積書類が 2 件残されていた。領事インボイス (Consular Invoice) などの書類で構成されている<sup>9)</sup>。1 件目は、1906 年 10 月 30 日付の在神戸米国領事館のインボイスを中心とした書類である。2 件目は、1907 年 1 月 21 日付の在横浜米国領事館のインボイスを中心とした書類である。船積書類によって、収集された資料がどのような手続きを経てアメリカへ渡ったのかがわかる。実際に残っている船積書類は 2 件であったが、この船積書類と発送品一覧および書簡の発送情報をたどると、発送は最低でも 4 回に

分けて計 34 箱、輸送費の合計 373 円 8 銭で行われたことになる。しかし、朝河が書簡のなかで文部省は寄贈本を直送するであろうとし、寄贈本の多くは後で送ると書いていることから、このほかにも直送を含めた発送がいくつかあった可能性がある。

### 3.2 朝河の行動と協力関係

朝河は、1906 年 2 月 16 日横浜に到着し、約 1 年半を日本で過ごした。1907 年 8 月 7 日に汽船加賀丸で横浜を出航し、ヴィクトリア州バンクーバーからモントリオール経由でダートマス大学のあるニューハンプシャー州ハノーヴァーに戻った。朝河は東京に拠点を置いていたが、収集のために 1906 年 7 月中旬から 8 月末頃まで私費で西日本に出向き、自ら資料を集める努力を惜しまなかった。

書簡からは、朝河の収集活動に懸ける情熱や海外に日本図書館を創ることに對する強い思いがあったことがわかる。また、朝河の日本資料の整理区分がわかるものがある。朝河は日本資料を江戸時代以前と明治以降とに便宜上区切っていた。

収集は、省庁から政府刊行物の寄贈に始まり、書店を介して法制史関係の資料の購入、吉川弘文館を通して新しい本の購入、

『大蔵経』などの原典の購入がなされていた。さらに、書き写して入手した写本があった。史料編纂掛の一次史料の書写の手配、西日本訪問で入手した写本の書写の手配など書写代や写字生、書き写す場所の手配まで朝河が自ら行っていたことがわかる。

収集に対する協力者として、早稲田大学の初代館長の市島謙吉、総理大臣で文部大臣兼任、外務大臣兼任の西園寺公望、東京帝国大学文科大学史料編纂掛事務主任（現在の史料編纂所長）の三上参次、衆議院議員の横井時雄らの名前が書簡に登場する。

### 3.3 入手先と入手の手段

入手には、購入、予約購読<sup>7)</sup>、製本、書写、寄贈、交換、備品などがあることがわかった。

収支一覧と発送品一覧には、どこから購入したかを示す情報もあった。しかし、すべてのタイトルの入手先が明らかではない。しかも、店名や名義人はすべてローマ字表記で簡略に記されている。また、個々のタイトルは記録されず、どこからいくつ購入したという大まかな情報しかない場合もあった。購入先の記録を手がかりに、朝河がどこから、どのくらいの規模で購入したかを調べた。まとまった購入には、書籍のほかに、東京帝国大学などの典型的な日本建築の設計図 (drawing charts) 50 枚もあった。さらに、写真のまとまった収集がなされている。

1907 年 5 月から 8 月の収支一覧には、予約購読 (subscription) とされるものが 3 タイトルあった。浄土宗典刊行会の『浄土宗全書』、丸善のウェンクシュテルン篇『大日本書誌 第 2 巻』、東京帝国大学文科大学史料編纂掛により出版された歴史的な肖像画である。この歴史的な肖像画は、『歴史科教授用参考掛図』を指しているとみられる。掛図は、朝河が授業で用いるため、学

生のために集めたことを表している。つまり、収集資料に教材も含まれていたことを示す例である。朝河は、信頼できる機関から、学術利用に耐える掛図を入手できたと言える。

朝河は、アメリカでの使い勝手を考慮して洋装にして収集していた。ほとんどの一覧には、製本 (binding)、再製本 (rebound)、修復 (repairing) に関する記録があり、少なくとも 1952 巻の本が製本、201 巻の本が再製本されたとみられ、かかった費用は最低でも 521 円 62 銭であった。当時の日本にも洋装の技術があり、一覧に製本費用の記録があることから、資料は日本で製本したことが明らかとなった。

収支一覧と発送品一覧からわかる書写先は、書写の経費の預け先として、帝国大学 (史料編纂掛での書写のため)、帝国大学<sup>8)</sup>、長崎市役所、佐伯宥純 (高野山の寺での書写のため)、遠藤芳樹、岡山県があった。書写先は、大学関係、政府機関や地方公共団体、寺社、個人があり、その中には朝河の監督下で行われたものもあったと一覧に明記されている。量に関する記録は正確にはわからないが、金額は、わかっているだけで約 3,400 円が書写に使われていた。

書簡と一覧から、寄贈があったことが確認できた。寄贈は、大きく個人と団体に分けられる。書簡によれば、1874 年にイエール大学を卒業して、朝河と同時期に日本や中国に滞在していた Chares J. Morse 氏から、朝河を通して 20 冊からなる *Shimbi Tai-kwan* と 2 輯からなる *Shina Meijin Gwashu* の寄贈があった<sup>9)</sup>。書簡からは、このほかに、政府機関からの寄贈があった様子わかる。一覧からは、個人では著者からの寄贈があった。一覧の団体は、政府機関、地方公共団体、寺社、研究機関に分けることができる。個人による寄贈は、朝河の母校であるイエール大学や早稲田大学

に縁のある人物によるものであることがわかった。団体からの寄贈は、政府機関の政府刊行物のほか、高野山や本願寺、八坂神社などがあり、朝河の西日本訪問の成果が窺える。

書簡には、資料の交換に関する記述があり、図書だけでなく、学術雑誌の交換も行っていたことが明らかになった。

収支一覧には、図書のほかにしばしば備品の収支記録もあった。備品の支出を合計すると115円8銭となる。内訳は、朝河のオフィスのためのテーブル、ストーブ、文房具、炭である。そのほかに、日本からイエール大学への書籍の輸送の際に使用したとみられる木製の箱がある。木製の箱は、一覧に4回現れ、合計すると27箱となる。しかし、船積書類ですでに述べたように、書簡や発送品一覧の記述をたどると、蔵経書院からイエール大学への直送に1箱、吉川弘文館からイエール大学への直送が4箱、そのほか朝河が運送会社を介して発送したのが29箱となるため、合わせて34箱が送られたことになる。

#### 4. 考察

今回の調査により、購入以外にも、収集の公式表明である『イエール大学図書館長年次報告』に示された寄贈、交換がなされたことが確認できた。特に、交換については、書簡にしか言及がなかった。書籍のほかに、地図、写真を集めている点も明らかとなった。書写した写本の入手先として、東京や西日本一帯の寺、図書館、公的施設で行われたことも合致する。協力関係も、日本政府、史料編纂掛の三上参次など『イエール大学図書館長年次報告』の記述が裏付けられた。

今回の研究により、書簡類にある収支一覧・発送品一覧に記された資料の方が、前回調査対象とした目録よりも量が多いこと

がわかってきた。つまり、イエール大学のバイネキ稀観本・手稿図書館にあるような日本古典籍ではなく、一般書架などに分散されたコレクションの一部分が解明できる可能性がある。

#### 注・引用文献

- 1) 国文学研究資料館文献資料部. イエール大学蔵・日本文書コレクション目録調査研究報告. 1990, 第11号, p. 31-93.
- 2) 松谷有美子. 朝河貫一によるイエール大学図書館および米国議会図書館のための日本資料の収集. *Library and Information Science*. 2014, No. 72, p. 1-35.
- 3) 松谷有美子. “朝河貫一が集めたイエール大学図書館および米国議会図書館の日本資料：書簡を手がかりとして” 図書館は市民と本・情報をむすぶ. 池谷のぞみ, 安形麻理, 須賀千絵編著. 勁草書房, 2015, p. 34-43.
- 4) Librarian, Yale University records (Manuscripts and Archives).
- 5) Yale University Library. Report of the Librarian of Yale University, 1907-1908, 43 p.
- 6) 領事の送り状. 輸出国駐在の輸入国領事が船荷の内容を証明するもの。国外へ本を輸出する場合、在日某国領事館へこの送り状を事前に提出し、輸入許可を受ける。
- 7) 明治時代の予約出版と考えられる。刊行に先立って購読者を募り、代金の全部または一部を前払い頒布を予約する出版のこと。
- 8) 東京か京都か不明。
- 9) 『真美大観』と『支那名畫集』もしくは、『支那名人書畫百集』と推測される。